



Title	言語文化学 Vol.26 編集後記
Author(s)	井元, 秀剛
Citation	大阪大学言語文化学. 2017, 26, p. 112-112
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/62203
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

『言語文化学』第26号をお届けいたします。今号には15編の応募があり、そのうち12編が提出され、厳正な審査の結果、最終的に論文7編を掲載することになりました。ご多忙中にもかかわらず査読をご快諾下さった先生方には、この場をお借りして衷心より感謝申しあげます。

また、学会活動のもうひとつの柱として、例年通り2度の合同研究発表会を開催しました。箕面キャンパスで開催された第49回大会（春季大会、6月23日）では、今年度も言語社会学会の皆様に準備・運営から懇親会に至るまで、大変お世話になりました。言語文化学会から5名、言語社会学会から5名、合計10名が4室に分かれて研究成果を発表しました。第50回大会（秋季大会）は豊中キャンパスで10月27日に開催し、言語文化学会から7名、言語社会学会から3名、合計10名が4室に分かれて研究成果を発表しました。懇親会にも多数の皆様にご参加いただき、盛会となりました。

学会運営については、本年度は、井元秀剛（委員長）、王周明先生（書記）、岡田悠佑先生（秋の大会運営担当）、越智正男先生（春の大会運営担当・前期）、金崎春幸先生（副委員長）、宮本陽一先生（秋の大会運営担当・後期）、ハンヒソン先生（事務局）、ジェリーヨコタ先生（秋の大会運営担当）、ヨコタ村上孝之先生（学会誌担当）の9名の教員委員（五十音順）、および、オユナーノミンさん、桑原拓也さん、田儀勇樹さん、田中史哉さん、南澤佑樹さんの5名の院生委員（五十音順）から成る、総勢14名の委員が担当しました。ハン先生には、学会運営に伴う実務上の煩雑な業務を快く引き受けいただきました。先生の献身的な努力のおかげで、ようやく事務局が円滑に機能するようになりました。また、他の委員の皆様の働きにも大いに支えられました。本年度より、執筆者が査読希望者の氏名をあげることが許可されたり、大阪大学リポジトリのOUKAにて本誌が公開されることになったり、さまざまな変化が生まれてきています。学会員の皆様には、今後も大会や本誌に積極的にご参加下さるとともに、ご発表・ご投稿の際の要項遵守などに関しまして、引き続きご協力をお願い申し上げます。

将来、学会誌を作り上げる過程が教員と院生の共同作業による教育実践の一貫となることを願い、さらに、言語社会学会と合同で開催することになってはや数年経つ大会運営の試みが、両学会のより一層の交流の機会として、充実していくことを期待します。

2017年1月

大阪大学言語文化学会委員長 井元秀剛